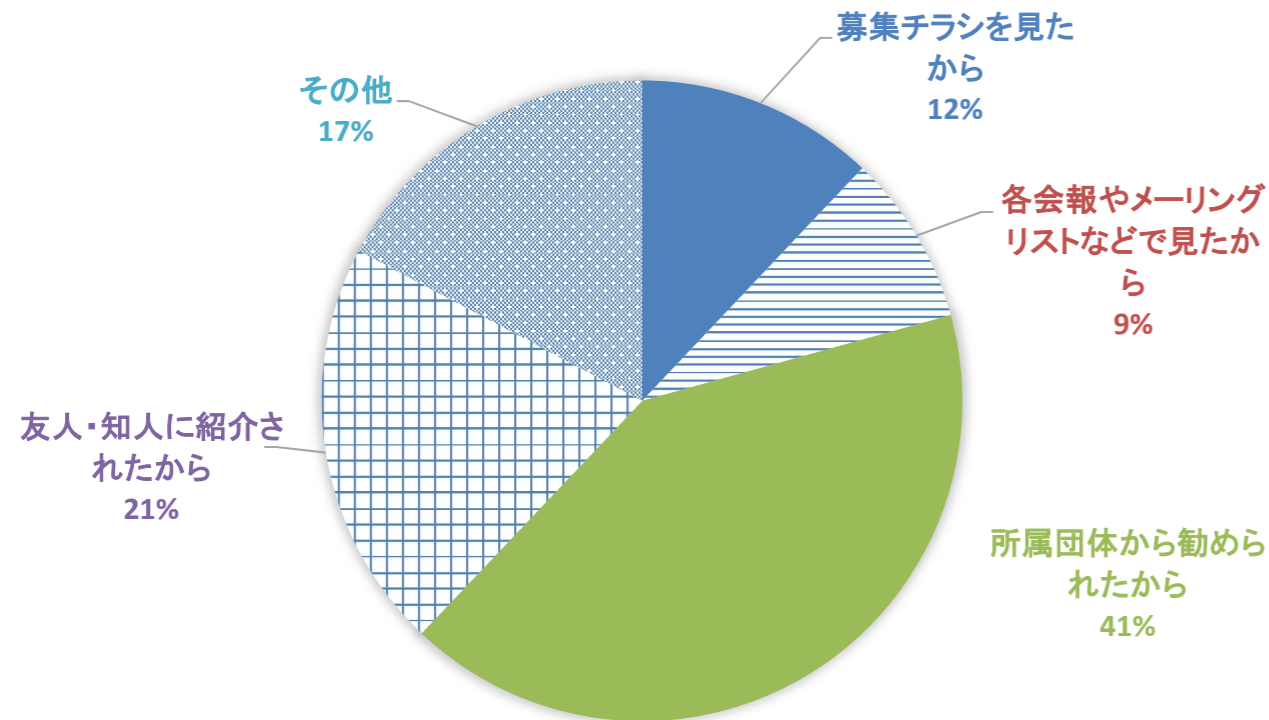
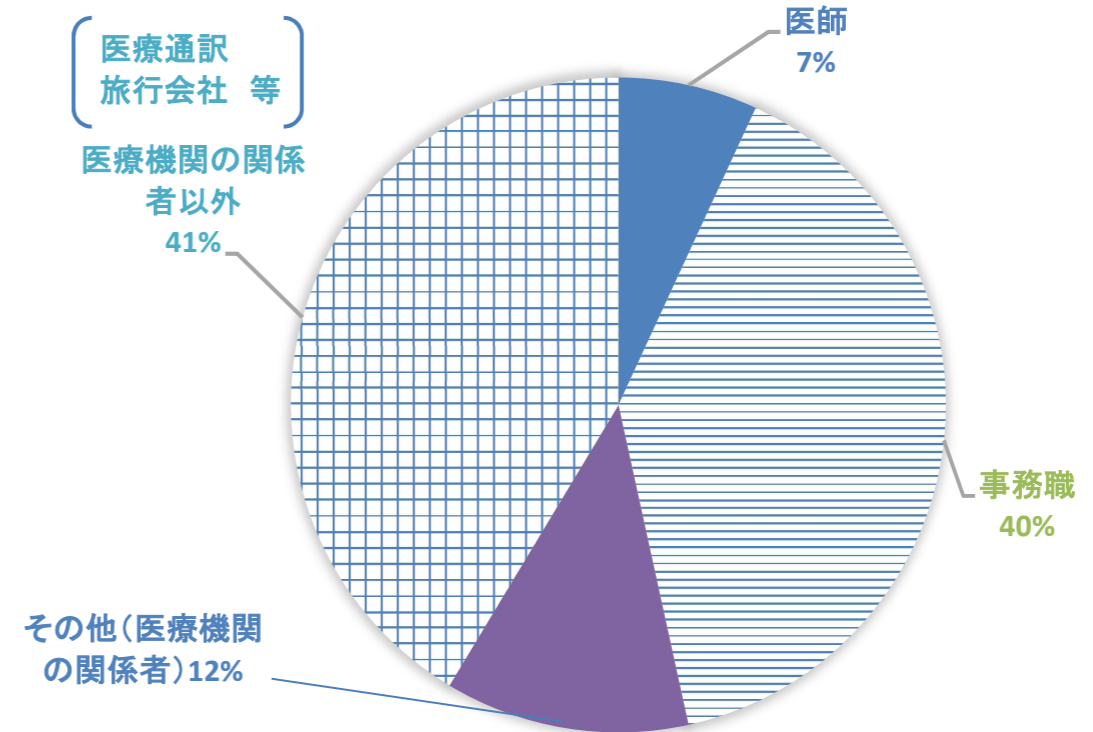


「愛知の医療ツーリズム推進シンポジウム」(平成29年10月29日)のアンケート結果 <回答数58(参加者:約100名)>

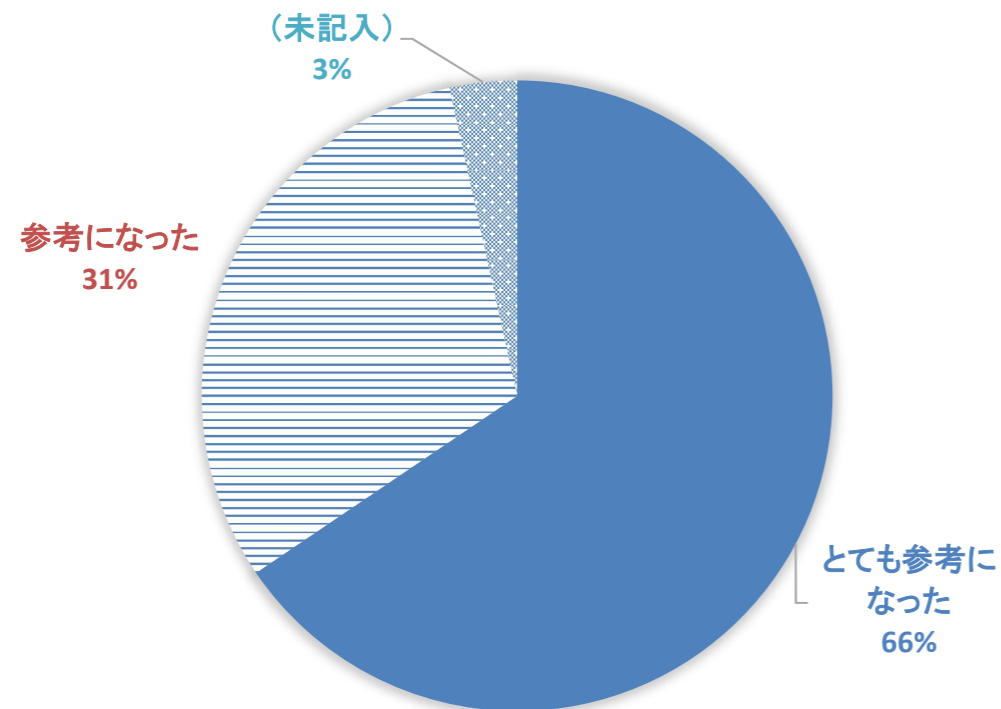
Q1.当シンポジウムをどのように知ったか？



Q2.職種は何か？



Q3.シンポジウムの内容はどうだったか？



<意見や感想(一部)>

- ・なぜ、今、「愛知の医療ツーリズム」が必要なのかよくわかりました。これまで、外国人の受診に際して「外国人イヤダー」、「言葉が分かるの?」、「お金は持っているの?」と思っていましたが、考えが変わりました。
- ・聞きたい内容…医療コーディネーターの仕事はどの程度のことまで介入したらよいのか。
- ・製造業、流通などグローバル化している業種と比較すると、改めて医療業界の閉鎖的な風潮を感じた。日本の経済、世界の経済・文化を医師、看護師、コメディを主にもっと勉強しなければいけないと危機感を覚えた。
- ・今まで病院内で、医療の質の向上及び外国語の習得をすればよいという目線で見られていなかったが、“愛知”という枠で見て、戦略を練ること、日本のGDPを伸ばすこと等、視野が広がりました。
- ・今日伺った話を参考に当院でも体制を改善していきたいと思います。JMIP取得も大変興味があります。
- ・人口減による国内マーケットの減少と、それに対する対策をお伺いできて勉強になりました。(非常に大きな投資をされていることに驚いています)現在2,400万人(1年間)の訪日インバウンドに対して、0.1%の方が日本の医療機関を利用するとしたら、2万4千人(年間)となります。非常に(日本の経済に対しての)インパクトが大きい領域であると感じています。
- ・外国人患者の集患方法について(韓国、シンガポール、欧米に勝つ方法)
- ・現在、中国に特化してですが、患者受入ではなく将来的な発症リスクを予測できるドックと旅行と組み合わせる企画を受け入れ可能な機関及現地の募集媒体先と進めております。
- ・相談窓口機関を教えていただけると助かります。
- ・今後も、インバウンドに関連した医療ツーリズム勉強会があればありがたいと考えております。
- ・山田先生が紹介された医療通訳のウェアブル端末にすごく興味を持ちました。医療通訳の基本はFACE to FACEと考えていましたが、検査等の簡単なものはこのウェアブル端末で可能と考えます。医療通訳者の通訳とこのシステムの共存という事が今後のあり方ではないかと感じました。より具体的な製品仕様を知りたいです。
- ・次回は医療ツーリズムの推進のなかで、医療通訳の役割、責任についてのシンポをお願いします。
- ・愛知県では、「あいち医療通訳システム」として、環境を整えていますが、報酬となると単独で医療通訳としては生計を立てることは難しいのが現状です。専門性の高い通訳(司法通訳、法廷通訳)と比較し、医療通訳の報酬について、①どこが負担するか、②いくらぐらいの相場を想定しているか、③今後、愛知県あるいは医師会として医療通訳に対する体制についてのお考えをご教示いただければ幸いです。
- ・医療ツーリズムより先に在日外国人を医療通訳として育成して病院スタッフとして迎えるべきではないでしょうか。